

平成 30 年 9 月 7 日

## 平成 30 年度 なでしこ BC 連携パトロール

天野産業株式会社

建設業においては、従事者の高齢化や若手入職者の減少が問題となっており、技術や技能に優れた担い手の確保が課題となっています。女性が働きやすい業界にすることで、男女問わず誰もが働きやすい業界に繋がるという考え方から、「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」が策定されました。

そのような状況を踏まえ、このたび建設業に携わる女性によるパトロールを実施致します。工事現場の安全衛生面や作業環境の状況等を評価・改善し、働きやすい現場環境を目指します。

1. 日時 平成 30 年 10 月 5 日（金）

現場見学・パトロール 13:00 ~ 14:00

講評 14:00 ~ 14:30

2. 場所 岡山環状南道路東畦地区第 2 改良工事

※なでしこ BC 連携とは・・・

災害対応力を高めるための志や規模を同じくする連携グループ。徳島県の建設業者を中心に、和歌山県・岡山県の建設業者で活動している。BC は、Business Continuity の略で「事業継続」の意味です。

### 過去のパトロールの様子



【平成 29 年 6 月 和歌山県にて】

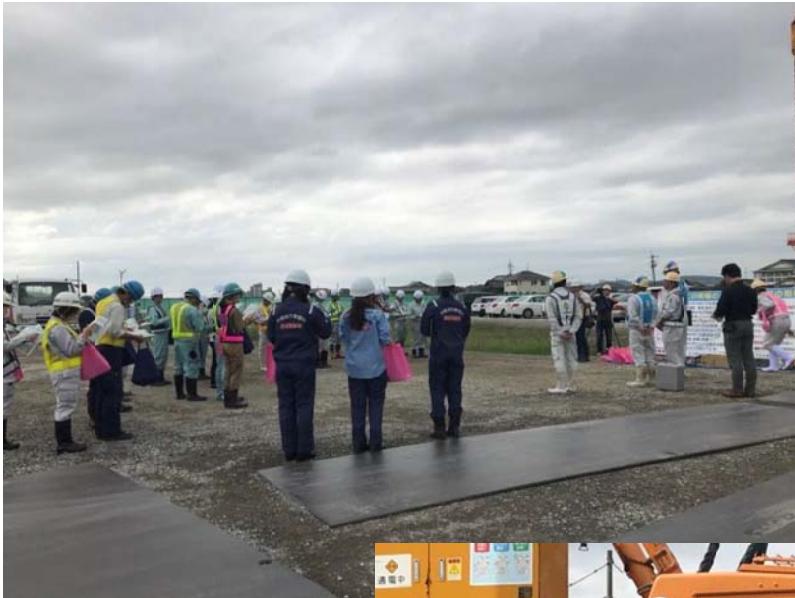


【平成 29 年 2 月 岡山県にて】

# なでしこBC連携パトロール

## 2018.10.05(金)

### 岡山環状南道路東畠地区第2改良工事



# なでしこBC連携パトロール

## 2018.10.05(金)

# 岡山環状南道路東畠地区第2改良工事



# なでしこBC連携パトロール

## 2018.10.05(金)

### 岡山環状南道路東畠地区第2改良工事



# なでしこBC連携パトロール

2018.10.05(金)

## 岡山環状南道路東畠地区第2改良工事

衛生週間中に開催された「なでしこBC連携パトロール」でした。

皆様から頂いた点検結果を参考に、今後もより一層の現場環境の整備に努めます。  
参加された皆様方、有難うございました。

天野産業(株) 岡山環状南道路東畠地区第2改良工事  
現場職員一同



# 女性目線で現場改善 なでしこBC連携パトロール

女性ならではの感性と目線により、工事現場の環境を改善する動きが活発化している。国土交通省岡山国道事務所が発注した岡山環状南道路東咲第2改良の現場で5日、「なでしこBC連携パトロール」が行われ、県内外から参加した24人の女性が安全衛生面や作業環境などを細かく見て回った(写真)。

(6面に関連記事)

(1面)

# 建通新聞 岡山

発行所 建通新聞社

## なでしこBC連携パトロール「働きやすい環境に感嘆」天野産業の現場訪問

**【1面関連】**「BC連携パトロール」は、大規模災害が発生した時の災害対応力を高めるため、地元の建設業者が地域の枠を超えて協力し、各社

の事業継続とともに被災地への復興支援活動を助け合いながら効率的に進めることが主な目的。徳島県の建設会社が始めた取り組みが、現在では和歌山県そして岡山県にまで広がり10社が参加するまでだ。

今回、女性で組織する「なでしこBC連携パトロール」が訪れたのは、天野産業(笠岡市)が施工する工事現場(写真)。天野産業が活躍するなど毎日頃から女性が働きやすい現場環境づくりを推進しているため、参加した女性からは「トイレがとても清潔」「至るところに安全を促す掲示がある」「看板やバリケードがカラフルでおしゃれ」「休憩所が快適」「歩きやすい」「女性の写真と音声で身だしなみをチェックしてくれる鏡には驚いた」などの感想が聞かれ

地  
域  
**NEWS**

FAX 086-805-1170  
電話 086-805-1170  
受付時間 9時~17時

(6面)

## なでしこBC連携パトロール開催

天野産業が5日、県内外グループと共同で実施

天野産業㈱は5日、所属する企業連携グループのイベント「なでしこBC連携パトロール」を岡山市南区東畦地内の工事現場で開催した。



〈工事現場環境を見回る参加者〉

なでしこBC連携は、徳島県で災害時の連携を目的に2015年2月に発足した企業連携グループで、和歌山県・岡山県内の建設業者を含む13社が参加しており、県内からは天野産業、奥野組の2社が参加している。

なでしこ連携パトロールは、連携企業の業務内容理解、社員の交流、女性目線を取り入れた職場づくりを目的に定期的に開催されている。今回は、天野産業が施工を担当する岡山国道事務所発注の「国道180号岡山環状南道路・東畦地区第2改良工事」を対象に、県内外から7社が参加、女性社員を中心に、普段は目の届きにくい工事現場の衛生状態や作業環境などを視察した。

天野産業担当者は、「県外を含む中小企業グループに参加することにより、自社で活用できる工夫や取組みの導入ができる」とグループ活動の意義を語った。